

1. 策定にあたって

竹田市では、全国的に進められている「地方創生」の流れに先行し、以前から過疎対策や積極的な若者の定住促進、新規就農者支援などに継続的に取り組んできました。また平成27年度からは、「人口減少への対策」と「地域経済の維持・活性化」を目指す指針となる「竹田市地方創生 TOP 総合戦略」（5ヵ年計画）に沿って、様々な施策を展開してきました。

しかしながら「人口減少」という課題に対し政策効果が表れるには長期間の時間を要し、施策の効果は人口減少を緩やかにすることができても簡単には止められません。

本市では、下降トレンドの人口減少社会にあっても市民一人ひとりが「地域の誇り」を持ち、将来にわたって持続可能な地域社会の実現を目指した「第2期竹田市地方創生 TOP 総合戦略」（令和2年度を初年度とする5ヵ年計画）を策定しました。

地方創生の本来の目的達成に向けて、行政が強い危機感と責任感を持ち、司令塔となって多様な主体と連携・協働しながら地方創生を推進していきます。

2. 第2期 人口ビジョン

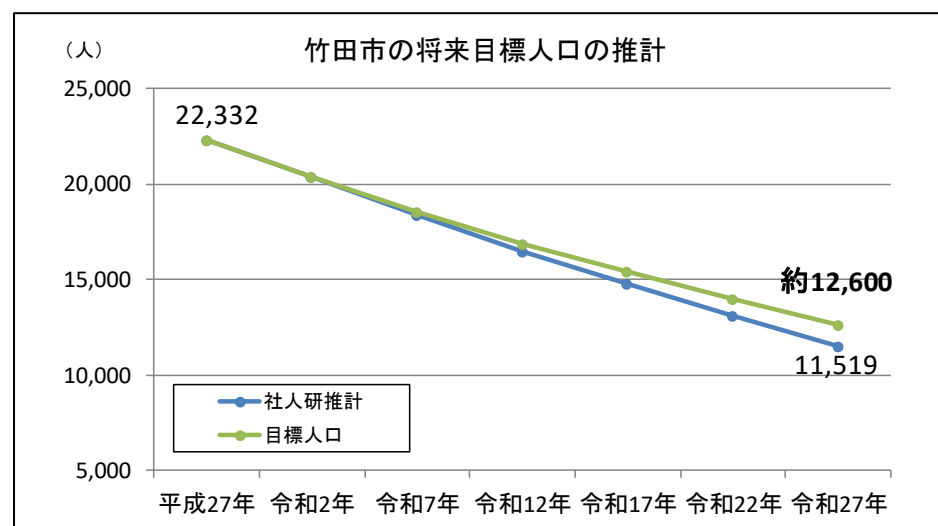
竹田市は、**令和27（2045）年の目標人口を12,600人と設定します。**

合計特殊出生率・・・令和12年2.1の実現

転出超過抑制人数・・・年間平均20人

25年後の令和27年の本市の人口は、人口減少対策を何もしない状況よりも、1,000人以上多くなることを目指します。

また、若者の市外への転出を抑え移住者を増やすことで、将来の年少人口（15歳未満）や生産年齢人口（15～64歳）の人口減少を抑えていきます。



※社人研推計：国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」に準じた推計
目標人口：竹田市が将来展望で描いた独自推計の目標

3. 竹田市における地方創生に向けた基本的な視点



【視点1】人口規模が小さくても豊かに暮らしていける社会をつくる

人口規模が小さくても豊かに暮らし続けられる地域を維持していくための仕組みづくりを強力に推進し、暮らしの質の向上を図るとともに、市民一人ひとりが「自らが暮らすまち、地域をつくっている」と感じられるようなシビックプライドを醸成していきます。

【視点2】域内の財産には限りがあることを意識し、整理、集約、多機能化を進める

小規模な人口で地域社会を維持していくためには、地域内の“人・もの・金”といった財に限りがあり、これまでどおりの潤沢な資源は望めないことを認識しなければなりません。

新たな組織や事業の立ち上げ時だけでなく、行政部署や制度ごとに地域内に分散している既存の事業や役割の整理・集約・多機能化を進め、効率的な運営を検討します。

【視点3】市場特性や地域資源を最大限生かし、

域外の力を味方につけ、域外から稼ぐ

竹田市の過疎化・高齢化は全国でもトップスピードで進行しています。しかし、裏を返せば「日本の未来の10年先20年先をいく自治体である」という特性は、国全体で人口減少が進む日本というマーケットにおいて大きな強みです。本市の課題解決だけでなく、他の地域の課題解決にも寄与できるテスト市場として責任と使命を持って取り組むことで、資金調達をはじめとした域外の力を味方につけていくことが可能です。

あらゆる地域課題解決に際し、域内の力に留まらず域外とのつながりを意識し、その活力を追い風にしていく視点が重要です。域内経済の活性化に向け、域外から稼ぐポテンシャルを持つ地域資源を最大限に生かし、本市の強みである農林畜産分野や観光分野の成長産業化を進めます。

【視点4】自立性・将来性・地域性・総合性・結果重視の政策5原則、

とりわけ「結果重視」を意識した政策展開

第2期総合戦略の策定においては、国の示す自立性・将来性・地域性・総合性・結果重視の政策5原則をふまえ、人口減少に対応した課題解決型の地方創生施策となるよう政策を展開します。

4. 竹田市地方創生 TOP 総合戦略【全体像】

基本目標Ⅰ くらし・まち	基本目標Ⅱ しごと	基本目標Ⅲ 思い・つながり	基本目標Ⅳ ひと
安心して暮らすことができる 地域社会を実現する ●現在の地域拠点(旧小学校区)の維持を目指す 令和6年度に地域拠点数(旧小学校区)19箇所	働き方イノベーションを通じて、 稼ぐ仕事をつくり、域内の仕事を支える ●第一次産業従事者の付加価値額増を目指す 第一次産業 従事者1人あたりの付加価値額 312万円 ●サテライトオフィス等を含む企業誘致の実現を目指す 令和6年度目標 5社(5年間累計)	「ここで暮らしたい」という願いを叶え、次世代につなげていく ●移住施策を活用した移住者数を、5年間で100世帯を目指す ●Uターンで転入した人の人数を、5年間で50人を目指す	あらゆるライフステージで健やかな 毎日を過ごせるようにする ●若い世代の結婚・子育ての希望の実現 合計特殊出生率 令和6年度に1.8を目指す ●健康寿命で大分県一を目指す(現在2位) ●小さな拠点を全ての校区(19箇所)に設置
1. 竹田市版コンパクトシティの推進 - 各地域ならではのコンパクトシティの構築 - 城下町の情感を活かした中心市街地の活性化 2. 共助の仕組みづくりの伴走型支援による 持続可能な地域社会の形成 - 集落機能維持の仕組みの再構築 - 地域の歴史・文化、自然環境や景観などの「地域資源」の保全活動の支援による地域力の向上 - 地域防災機能の強化 3. 地域交通網の維持と効率的な運用 - 広域交通ネットワークの推進 - 地域公共交通網の再編  4. 情報通信網の維持・確保と効率的・積極的な運用 「くらしの情報化」の推進 - 情報通信インフラに関する研究 5. 持続可能な環境保全 - 強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築 - 環境に負荷をかけない地域づくり 6. 公共施設のストックマネジメント - 公共施設等の施設総量の適正化・長寿命化 - 公共施設等の有効活用	1. 農林畜産分野、観光分野を成長産業と位置づけ、集中的に育成・誘致・効率化を図る - 農業後継者の育成と環境改善 - 企業との連携 - 農商工連携による販路拡大・ブランド化の推進 - 地域ごとのニーズを捉えた多様なツーリズムによる交流機会の創出 - インバウンド(海外誘客)への対応 - 湯治文化を活かした保養温泉地づくりとヘルスケア産業の創出 2. 若者や女性にとって魅力的な仕事・ライフスタイルの実現、柔軟な働き方の実現による多様な雇用機会とのマッチング - 女性にとって魅力的なしごと創出と女性の活躍推進 - 女性就農者の確保対策 - 若者から高齢者まで、多様な就労ニーズと雇用機会とのマッチング 3. 生産性向上のための未来技術・域外の活力導入 - 農林畜産分野での未来技術の活用 - 農林畜産を支える域外の活力導入 - 介護職場の生産性向上の支援 - 中小企業の生産性向上のための設備投資支援 4. 新たな価値を創造する人材のスタートアップを支援、地域内の産業の多角化 - クリエイティブな発想を活かした起業・創業の推進と「創造的人材」の集積 - 市内産業の多角化 - 商工業の活性化と空き店舗対策	1. 移住の推進、住環境整備をはじめとする定住促進 - 移住を促進させる支援体制の充実 - 定住促進のための住環境整備 2. 小・中・高等学校の各課程における郷土教育、高等学校の魅力化・機能強化 - 竹田郷土学の推進により、豊かな心・地域を愛する心を育む取り組み - 竹田市教育のまち TOP 運動の推進と実践 - 子どもたちの学びを支える教育環境の整備・充実 - 地域の将来を支える人材育成のための魅力・特色ある高校づくり 3. ふるさと納税をはじめとする関係人口創出に向けた取り組みとファンマーケティング - 竹田ならではの魅力的な情報コンテンツづくり - 様々な媒体による情報発信の強化 - 様々な分野、地域のひとのつながりによる関係人口の創出 	1. 結婚から子育てまで切れ目ない細かい支援 - 結婚活動の支援 - 保育サービスの充実 - 地域ぐるみで子育て一番宣言 - 安心して子育て(妊娠・出産)できる環境づくり  2. 誰もが安心して暮らせる地域医療体制の確立 - 地域医療体制の整備・充実 地域医療体制の充実支援 救急医療体制の強化 3. 健康一直線 ～市民総参加で健康寿命を延ばすまちづくり～ - 健康づくり組織の育成と支援 - 健康増進と予防活動の充実 - 高齢者の保健事業と介護予防の連携 - スポーツ・レクリエーション活動の充実 4. 我が事・丸ごと地域共生社会の推進 - 元気な高齢者の活躍の場づくり - 誰もが自立した生活を継続できる地域づくり - 暮らしのサポートセンター事業の推進